

国際社会 の中の日本

—日本の果たす役割—



第1回
2月8日(木)
宇佐美 誠
 地球環境学 教授

トランプ時代の暮らしと経済

トランプ政権の登場は、国際社会での自由貿易体制と積極的な移民受入れに対して、重大な挑戦を突きつけています。この政権は本当にアメリカ国民に利益をもたらすか、他国にどのような影響を与えるか、日本はどんな役割を果たしてゆくべきかを考えます。



第2回
2月15日(木)
水野 広祐
 東南アジア地域研究所 教授

インドネシアにおける 荒廃乾燥泥炭地の回復への挑戦

熱帯泥炭生態系は、膨大な炭素や水を包含する生物多様性に富んだ生態系の1つですが、今日、アブラヤシ栽培の展開などにより荒廃がすすみ、2015年7月から11月までのインドネシア泥炭火災で排出した地球温室効果ガス排出量は、2013年の日本全体の年間CO₂排出量を上回るほどでした。私たちは、文理融合チームを組んで、地域社会の人々とともにその回復に努めています。今回は、その実践研究の様を紹介します。



第3回
2月22日(木)
木邨 洗一
 総合生存学館(思修館) 特定教授

グローバル人材育成と開発援助 —総合生存学館の試み—

我が国のODA(政府開発援助)について、その歴史、政策、予算、事業内容、実施体制等を概観します。その上で、世界に通用する人材育成を求められている大学教育における、開発教育の必要性を議論します。5年一貫の博士課程の学生に必須科目として1か月途上国での活動を課している京都大学総合生存学館のユニークな取り組みとその成果を披露します。



第4回
3月1日(木)
酒井 啓亘
 法学研究科 教授

国連の平和維持活動(PKO)と日本

国連の平和維持活動(PKO)は冷戦期に国連や加盟国の実行を通じて発展してきましたが、21世紀に入って大きな転機を迎えています。日本も、国内法制を整備しつつ南スーダンのPKOなどに参加していることから、国連の活動の動向に無関心であることはできません。日本は国連PKOの発展にどのようにかかわっていくべきなのでしょう。

ニュースでは連日のように、ポピュリズムの台頭による民主主義の危機、国家の枠組みでは捉えきれない紛争やテロリズム、世界にまたがるグローバルな経済活動や人の移動をもたらす摩擦などが伝えられています。ますます混沌とする国際社会の中で、日本は国際的な課題を解決するためにどのように対応し、どのような役割を果たしてきたのでしょうか。そして、これからの日本には、何が求められているのでしょうか。

今回は、前回に引き続き「国際社会の中の日本」と題して、日本の果たす役割について、さまざまな分野からアプローチし、考えてみたいと思います。

[主催]
京都大学

[講演時間]
各回 18時30分~20時

参加費
無料

■ 開催場所 「京都アカデミアフォーラム」 in 丸の内

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階(京都大学 東京オフィスのすぐ隣)



申し込み方法

[お申し込みはWEBまたはFAXで]

京都大学ホームページからWEBでお申し込みいただくか、申込用紙をダウンロードしFAXでお申し込みください。各回定員**120名**、締め切りは**1月26日(金)**です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、申し込み多数の場合は、抽選となります。詳しくはホームページをご覧ください。



スマートフォン・携帯電話・タブレット端末から上記QRコードを読み取り、京都大学のホームページにアクセスください。

問い合わせ先

京都大学東京オフィス 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階
 TEL: 03-5252-7070 FAX: 03-5252-7075 E-mail: t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp
 URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office